SUSAP 2023 SPRING

東華大学
プログラム

2023.2.17 ~ 3.21

参加者プロフィール（氏名、学部学年、好きな台湾料理）

藤本千穂里（団長）
芸術地域デザイン学部 3 年
牛肉麺

家村章大（副団長）
農学部 3 年
鶏排

小久保芽衣
理工学部 3 年
鶏排（少し辛いチーズ味）

青木美千
教育学部 3 年
小籠包

平川紗妃
農学部 3 年
魯肉飯

百﨑梨々花
理工学部 3 年
鶏排

木田ヒカル
経済学部 2 年
魯肉飯

髙口ひな
経済学部 2 年
蛋餅

中原歩美
経済学部２年
胡椒餅

佐藤杏奈
経済学部２年
牛肉麺

飯島しのん
経済学部１年
餃子、小籠包

野田恵
農学部１年
糖葫蘆

砂子佳花
経済学部１年
皮蛋豆腐

神戸愛心
芸術地域デザイン学部１年
金沙豆腐、タロミルク

中園千絢
芸術地域デザイン学部１年
牛肉麺

プログラム概要

【期間】 2023 年 2 月 17 日～ 3 月 21 日

【留学先】東華大学　台湾

【内容】自分の関心のある授業を選択し参加することで、英語力の向上と専門知識の習得が期待できる。期間が長く、英語で授業に参加できるため、本格的な留学体験が得られる。

東華大学について

東華大学は、台湾の東海岸にある花蓮市郊外にあり、1994 年に設立され約 10,400 人の学生が在籍している国立の総合大学。学部は理工学部、人文社会学部、管理学部、原住民民族学部、海洋科学部、教育学部、環境学部、芸術学部の 8 つである。

授業

1 つの授業が 2 コマで構成されており 1 コマ 50 分×2 となっている。各自が興味のある授業を選択するので時間割は個々人で異なる。「English Communication」と「English Reading and Writing」の授業は 3 段階のレベルで開講されていたので自分の英語力に合った授業を選択できた。また、英語で開講されている専門科目が佐賀大学より多かったので、語学力の向上だけでなく、専門的知識の習得にもつながった。

バディとの交流

今回のプログラムでは学生 1 人につき 2～3 人のバディがついてくれたくさんの思い出をつくった。休日や放課後は旅行や外食をすることで台湾文化を体験することができたし、バディだけでなく授業で友達になった人との交流もあり、充実した留学生活を送ることができた。

台湾での生活

●大学の寮

私たちはこの 1 か月間学生寮に滞在した。基本的に 4 人部屋で部屋ごとに 1 つの洗面台・トイレ・お風呂があり、机とベッドは 1 人 1 つとなっていた。寮はキャンパス内にあり、授業が行われる教室までは自転車で 5 分～10 分ほどであった。寮の隣には学食があったので昼食や晩御飯はそこで食べる学生も多かった。洗濯機やキッチンは共有となっていた。

●市場・物価

価格と比較すると全体的に安価であった。特にドリンクや小籠包や魯肉飯の安さに驚いた。海鮮が使われた料理は高価である傾向があった。日本などの海外の料理、夜市の食べ物は他と比べると高かった。また、クレジットカードが利用できない店が多かったので、クレジットカードが利用できるスーパーはありがたく、価格も高くなかった。食品以外の商品は日本とあまり変わらないと感じた。

●交通手段

大学内での移動手段は基本的に徒歩か自転車であった。自転車は大学の国際課が課してくれたものを使用した。台湾人はモーターサイクルで移動することが圧倒的に多く非常に便利だと感じた。バディと移動するときは彼らのモーターサイクルの後ろに乗せてもらい移動することもあった。花蓮市内外への移動の際は電車やバスを利用した。台湾のバスでは乗るときと降りる時でお金を払わなければならないため、小銭を必要としない Easy Card（IC カード）が非常に便利であった。

●食事

台湾料理は日本人にとってなじみのある料理が多く非常に安価だった。それらの中には八角

が含まれているものがあり、日本人学生の中にはその味を苦手とする人もいた。「豆花」や「蛋餅」など多くの台湾料理を楽しむことができた。台湾には各地に夜市と呼ばれる夏祭りのように多くの屋台が並ぶものが毎晩あり、たくさんの人でにぎわっていた。屋台の種類が多く何日あっても足りないくらいであった。

まとめ

今回、台湾に１ヶ月滞在し、たくさんの経験をすることができた。日本と違う環境に身を置き、最初は受け入れがたかった文化に慣れていく段階で自分の成長や異文化を受け入れることの楽しさ、大切さを感じた学生が多かった。この経験をしたあと、日本に帰ってから何をするかが大切だと思うので今回のプログラムを振り返り今後にどのようなかたちでつなげられるかを考え行動していきたい。

「研修で得た経験を活かして 」

芸術地域デザイン学部3年

藤本 千穂里

私は今回の台湾研修に参加するにあたって、３つの目的を持っていました。１つ目に、異文化で生活することで、常識と考えている部分を改めること、２つ目に、英語での会話、もしくはコミュニケーション力自体の向上、３つ目は、台湾という国について学生の目線からの意見を聞くことです。これら３つの目的に沿って、それぞれ達成度や学んだことをまとめたいと思います。

まず、台湾で生活する中で、日本の生活様式と違う部分が多くありました。例えば、食生活については、毎食外食で自炊をすることはありませんでした。これは、学生だからという訳でなく、台湾ではそれが普通であるということをバディから教えてもらいました。また、サラダなどの生野菜を食べる機会はほとんどなく、意識しなければ野菜を摂ること自体あまりありません。他にも、花蓮市では紙を流せるトイレが少ないことに加えて、そもそも紙が設置されていないことがほとんどだったため、常に衛生紙という、日本でいうトイレットペーパーや、ティッシュペーパーを持ち歩く必要がありました。このような違いについて、研修期間当初は不慣れなことも多く、すぐには馴染めませんでした。特に食生活については、栄養バランスが非常に不安でした。しかし、台湾での生活に慣れていく程に、不安に思うのでなく、楽しんで食事を摂ることの方が重要だと学びました。食事は基本的に、バディや友達と一緒に喋りながら食べることが多く、食べ慣れない料理も、それをきっかけに会話が弾んだりすることも

ありました。研修の中盤あたりには、そうした日本の当たり前とは違う部分も楽しめるようになり、ポジティブに考えられるようになりました。この様な変化を踏まえて、1つ目の目的は達成できたと考えます。

次に、英会話、そしてコミュニケーション能力の向上ですが、達成できた部分があった一方でできなかった部分も残ってしまいました。この目的のために、バディとの会話以外でも会話する場面を増やすため、私はディスカッションや生徒同士の協働作業のある教養科目を積極的に履修しました。「International Relationship」、「Intercultural Communication」、「Art and Life」などは特にディスカッションが多く、積極的に発言しなければなりませんでした。しかし、どの授業でも初めはただただ授業スピードと他の生徒の知識の幅広さに圧倒され、ほとんど自分なりの意見を出すことができませんでした。私たち以外にも、他にも留学生が多く参加していましたが、彼ら・彼女らは先生に対して、もしくは講義内容自体に反対意見を積極的に述べることもありました。そうした状況に最初はついていくことができず、ただ先生の説明を聞いて理解することで精一杯になっていました。授業では、「台湾が国外から晒される脅威として考えられるものは何か？」など普段は考えないような質問を、突然問いかけられる場面が多々あり、これを問いかけられた際、私は英語で咄嗟に返せなかったことに加えて、ほぼ考えが浮かびませんでした。これを受けて、2週目からは授業でテーマとなりそうなニュースや情報を英語と日本語どちらでも調べ、予習時間をより増やした上で授業に臨みました。すると、理解度が上がった他に、ディスカッションで事前に得ていた知識を具体例に昇華することで、理解してもらえるようになりました。普段から様々な分野のニュースや情報を、日本語のみならず英語でも収集することは、留学する上で必要不可欠なことですが、それに気づいてすらいなかったことを実感しました。そのため、2つ目の目的はこれからの課題として取り組んでいこうと思います。

最後に、私はバディやその友達から、台湾の現状や歴史ついて話すことができました。研修期間中、Peace Memorial Dayという祝日がありました。これは、二二八事件を忘れないための記念日でしたが、バディたちと話すまで、台湾の歴史について表面的なものしか知りませんでした。白色テロと呼ばれる時代がつい30年ほど前まで続いていたことや、その時代について台湾の人がどう考えているのかなど、全く考えもしていませんでした。バディはこれについて、台湾のインディーズバンドの音楽性を取り上げて、彼らの音楽が台湾のナショナリティや歴史に深く関わっていることや、一方でそうしたバンドは若い世代には人気である一方で、一般には受け入れられ難くメジャーデビューし辛いという現状をわかりやすく伝えてくれました。そして、中国との現在の関係性についても、彼らが香港に訪れた際のエピソードを交えて教えてもらいました。それまでそうしたトピックは触れがたく、自分からは聞き辛く感じていたので、本人たちから意見を聞くことができ、目的を達成できたことに加えて、非常に貴重な時間だったと思います。また、彼らが台湾人としてのアイデンティティとは何か、確立しようと模索している途中であるということを知り、では私が日本人としてのアイデンティティは何なのか、と聞かれて答えられるだろうかと考えました。しかし、自分の中ではっきりと

した答えは出せませんでした。現状、私は台湾や外国について考える以前に、日本の歴史や現状について知らないことが多すぎるのだと、今回の研修を通じて痛感しました。

これらの他にも、今回の研修からは様々なことを学ぶことができました。この経験や反省、課題を活かして、残り１年の大学生活をより主体的に過ごせるようしようと思います。特に、長期留学を計画しているので、今回得た学びを活かして台湾研修に加えてさらに多くのものを学べるよう、普段から心がけたいです。もちろん、大学生活以降の社会人として社会に出た後も、この経験を忘れずにコミュニケーションやその他、足りないと感じた部分のスキルアップを欠かさないようにしていこうと思います。最後になりましたが、佐賀大学の先生方、東華大学の先生方とバディの方々、そして両親のたくさんのサポートのおかげで、貴重な時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

バディたちと海に行った際の写真

「留学を通した自身の変化」

理工学部３年

家村章大

私が、この留学プログラムを通して、英語という言語に対する感謝を強く感じました。私は今まで海外に行ったことがなく、英語はただ勉強する対象のように思っていました。しかし留学に行った後、英語に対する価値観が変わりました。私は留学中、たくさんの日本人以外の方々と英語で会話をする中で、自分が考えていることを話せ、しっかりコミュニケーションが取れている喜びを毎日感じていました。英語がなかったら、きっと台湾で友達をつくることや台湾のことを深く知ることはできなかったし、英語をもっと勉強したいとはならなかったと思います。

また留学する前は、留学はとても難しいものだと怯えている自分がいました。しかし、いざ行ってみると、どうして出発前はあれほどにも身構えていたんだろうと不思議になるくらい、心のおもりは完全に無くなっていました。今では逆に、何事にも挑戦していこうと闘志に燃えています。当たり前のことながら、留学中にきついこともありました。最初の方は、英語を聞き取るのに苦労し、会話についていけなく、つらかったこともありました。ただ、この留学プログラムのおかげで、挑戦に対する心理的ハードルが低くなり、挑戦に対して前向きな気持ちを持つことができたと思います。次は、長期留学を目標にもっと英語力を伸ばし、今回で学んだことをしっかり活かせるようにしていきたいと考えています。

みんなで遊びに行った時の様子

「留学を経て学んだこと」

理工学部 3 年

久保芽衣

私は東華大学での一か月の留学を通して様々なことを学ぶことが出来ました。

平日は英語で授業を受けて，放課後にバディーと一緒にご飯を食べたり遊んだりしました． 授業はグループでディスカッションをするものが多かったです． はじめは他の意見を聞くことに必死で自分が違う意見であってもなかなか言い出すことが出来なかったけれど，最終週付近には「言ってみないと始まらない」という考え方を身につけることにより，積極的に授業に参加をすることが出来ました．東華大学に留学に来ている他国の留学生とも話すことで各国の考え方に触れることが出来ました． さらに印象的だった授業はバディーに勧められた「日本語」の授業です． 毎週ペアになってくれた台湾人に日本語を勉強している理由を聞いたら，「台湾人は多国語を独学で勉強することが好きな人が多く，大学で勉強をする機会があるのならば活用するべきだ」と話していました． 私は日本で生活をしていて英語しか勉強をしていなかったけど，あらゆる言語を勉強している姿を見て感銘を受けました． もっと積極的に他言語を学んでいきたいと思いました．

休日はバディーの方々が「一か月しか台湾にいないから満喫しなきゃ!!」と言って様々な場所に旅行に行きました． 台湾はだいたい九州と同じくらいの大きさだけど場所によって全く気候が違いました． そして，どの場所でもクレジットカードをあまり使えないこと

が印象的でした． お金を理由に台湾でしかできない貴重な体験を断るのはもったいないと思うので事前に日本円を多めに持っていくか，キャッシングサービスを利用することをお勧めします．

バディーとの会話は全部英語でした． はじめは相手のほうが英語を話すことが出来るため，聞き手になって質問に返答をすることが多かったです． でもあるときバディーに「自分も英語を習いたての時は全然話すことが出来なかったけど，意見を伝えることだけを意識すると良い」とアドバイスを貰ってからは積極的に会話をすることが出来たと思います．日本では正しい文法にこだわることが多いけど，英語はコミュニケーションツールなので正しさよりも意思疎通ができるかのほうが大切ではないかと考えるようになりました．

私は，院進学や就活で必ず使う英語力を上げたいという考えで今回のプログラムに応募しました． 実際に一か月間留学をしてみて，英語学習に対するモチベーションはもちろん，様々な考え方に触れることが出来き，貴重な体験をすることが出来ました． また国際交流の機会があったら参加をしたいです．

バディー達との旅行風景

「SUSAP を通して考えたこと」

教育学部 3 年

青木美千

私は今回の台湾 SUSAP で、英語がもっと好きになりました。英語力が向上したかというと、私はそうは思いません。そう思った理由と、私が台湾で実際に感じたことや考えたことをお話ししていきます。

今回は、実際に現地の大学に通うというものでした。台湾ということもあり、現地で使われている言語は台湾華語だったり、中国語だったりです。日常的に英語を使うわけではないし、寮は一緒に行った佐大生とのルームシェアなので、自分で英語を使う機会や学習する機会を設けないと、英語を使うチャンスがありませんでした。

英語を実際に話す機会というと、英語コミュニケーションの授業やバディと交流、ご飯に行くとき、クラスメイトや外国人の友達と話すときぐらいでした。そこで私は、ルームメイトと英語で会話するようにしたり、1 日の出来事を英語で話したりするようにして、工夫して英語を話す機会を作るようにしていました。

また、平日はしっかり勉強する、休日は遊ぶ、というようにメリハリをつけて過ごすことを意識していました。もちろん、友だちと晩ごはんを食べに行くこともありましたが、バディと自習室で勉強するときもありました。台湾の学生はとても勉強熱心な人が多くて、自習室に行くと、みんな黙々と勉強していたので、自然とモチベーションも上がりました。自習室では声を出すことができないので、スピーキングやシャドーイングはすることができません。だから、授業の予習や復習、文法も 1 から復習しまし

た。特に、授業中に出た単語や先生がしゃべっていたフレーズ、授業の内容などでわからないところがあったらその日のうちに解決するようにしていたので、そのようなことをしていました。

客観的に振り返ってみても、英語を話したり、聞いたり、触れたりする機会が圧倒的に少なかったので、英語力が向上したかと言われると、そうは思わないという結論に至りました。しかし、バディやクラスメイト、他国の友達と交流するときは英語が必須です。英語が通じるか初めは不安で、なかなか話しかけたりできなかったけど、最終日が近づくにつれて、相手に自分の英語が通じていることがわかるし、話も途切れない、ずっと続いていると感じるようになりました。自分の英語が通じると実感が持てるようになると、英語で話すことがとても楽しくなって、もっと好きになりました。

どうして最終日になるにつれて、バディやクラスメイト、友だちとの会話も続くようになったのかを考えてみると、毎日英語に触れていたことにあるのかなと思いました。英語で会話できるという感覚がとても楽しくて、うれしくて、日本に帰ってきても毎日英語学習を続けることができています。

台湾は、日本からも近く、物価もそれほど高くありません。1 食 50 元（約２２５円）～200 元（約 900 円）で食べることができます。台湾の人たちはみんな優しくて、九份などの観光地に行くと、日本語がしゃべれる人も多いです。留学してみたいけど、いきなり長期は不安な人や、華語にも興味がある人、留学前に海外での生活を体験してみたい人にもおすすめです。

これはどこに行ってもそうだと思うのですが、積極性がやはり 1 番大事だと痛感しました。自分から話しかけて、自分から誘って、というようにしないと、待っているだけでは何も起きません。海外に行ってみたいけど、と悩んでいるのももったいないです。まず SUSAP で行ってみたらいいのに！

「この留学を通じて私が感じたこと」

農学部 3 年

平川紗妃

私はこの研修を通して、語学力を向上させること、友達を 12 人以上作ること、そして台湾の文化を知ることの 3 つを目標としていた。私は海外に行くこと自体が初めての経験だったため、留学の準備から実際に現地へ行って経験したことや感じたことすべてがとても新鮮で、多くの刺激を受けた。今回はその中で私が感じたことを 2 つに分けて紹介していく。

＜1. 東華大学の授業について＞

東華大学の授業を受けて驚いたことは、多くの授業形態が生徒主体の授業だということである。日本の多くの授業は、先生の講義を聞く、学生が受け身の授業である。しかし私が東華大学で受けた授業の多くは、生徒がプレゼンをすることがメインのものであった。さらに、私が日本で経験したプレゼンは、4 ～ 5 人のグループで発表するものがほとんどだったのだが、東華大学は生徒 1 人のみで行うものが多かった。さらに、ほとんどの生徒がカンペを見ることなく聞き手を説得させるような話し方で話していて、PPT の完成度も高く、私が今まで聞いてきた学生のプレゼンよりはるかに高いレベルであった。これはプレゼンをする頻度が高いからだと思う。また、全体的に東華大学の学生は授業に参加する姿勢が日本とは大きく違うと強く感じた。私が受講していた”International relations”という授業では生徒が 5、6 人ずつくらいのグループに分かれて、世界の思想や政治経済についてディスカッションをするというもので、私のグループは皆それぞれ自分の意見をしっかりもち、それを裏付ける具体例まで提示していた。しかし、私は世界情勢についての知識があまりなかったため、自分の意見やその具体例を論述するのがとても困難だった。日本の若者は、私のように世界や日本のことでさえもあまり興味がなく自分の意見をしっかり持っている人が少ないように感じる。この授業を通して日本の若者と台湾やその他の国の若者との世界情勢の関心度合いの違いを強く実感した。

＜2. 寮での貴重な経験＞

最初の 1 週間は Covid-19 の隔離期間のため同じプログラム参加者の日本人 2 人と住んでいたが、1 週間後からはベトナム人の女の子がいる部屋に移動し、3 人で生活した。国が違う人と生活するのは初めての経験で、共同生活を始める前は、生活リズムや言語の違いなどでうまくやっていけるか不安だった。しかし、実際に暮らしてみると、お互いの国の郷土料理を作り合って映画を見ながら一緒に食事をしたり、その子と同じベトナム出身の友達が部屋に遊びに来て、互いの国のことについて話したりなど、たくさんの楽しい貴重な経験をすることができた。特に興味深かったのは、ベトナム人は“フォー”の予備が 1 袋でもないと不安になるため、未開封のものが 1 袋でもなくなるとすぐに買い足していたことである。これは日本でいう“米”と同じ位置づけであるように感じ、文化は違っても似ている面もあるのだと感じた。初めは国境の壁を感じていた私だったが、その子の人柄や、その日の出来事や恋愛トークなどの楽しい会話を重ねるうちに、この部屋で良かったと強く思えるようになった。

〈全体を通しての自分の目標の振り返り〉

この留学を通して、私の語学に対するモチベーションが向上した。なぜなら、国や文化が違う人

と英語を通して意思疎通できることの素晴らしさを実感し、さらに自分の英語力を向上させ、もっと自由に様々な国の人と互いの気持ちを伝えあいたいという思いが高まったからである。また、台湾人の友達とも中国語でもっと話したいという思いも強まり、中国語の学習の意欲も高まった。東華大学の学生達は本当に留学生に対する歓迎の気持ちが強く、この 1 か月の間で 40 人ほどの友達ができた。その中でも約 10 人とはこのプログラムが終わった後も連絡を取り続けている。次回また私が台湾に訪れたときや、台湾の友達が日本へ遊びに来るときは、必ず再会したいと強く思う。この短期留学プログラムを通して、たくさんの素敵な方に出会い、たくさんの刺激を受け他国の文化にたくさん触れることができた。この貴重な経験は私の海外留学に対する大きな壁を取り払ってくれただけでなく、自分の将来に関する視野を広げてくれた。このプログラムを計画し準備してくださった先生方、台湾でたくさん助けてくれた素敵な方々に感謝したい。

ルームメイトが作ってくれたベトナム料理

「台湾留学の成果」

理工学部3年

百﨑梨々花

私がこのプログラムの参加を希望した理由は２つあります。１つ目の理由は、私は今まで海外に行ったことがなく、海外に行くことへの漠然とした興味を抱いていたからです。２つ目の理由は、社会人になる前に、学生のうちから英語力及び、海外の人と活発に交流できるようなコミュニケーション能力を養いたいと思ったからです。今回の台湾への留学では、留学前に期待していた以上に多くのことを学ぶことができました。

東華大学で履修した授業の中で特に楽しかった授業は、「日本語」の授業です。自分の好きな難易度を選ぶことができ、私はレベル 3 の日本語の授業を受けました。この授業を一緒に受けた台湾の学生は、日本語で十分に会話ができる方が多かったです。そのため、台湾の学生の日本語を学ぶ姿勢にとても驚きました。授業の内容としては、簡単な日本語の文法を中国語で学習し、隣の席に座った人とペアになってスピーキングの練習を行いました。私は中国語がまったくわからなかったので、ペアになった方に中国語を教えてもらいながら楽しく学習することができました。また、授業の合間の休憩時間でも、彼らが日本語を使って積極的にコミュニケーションをとってくれたことがとても嬉しかったです。中には、アニメやドラマなど日本の文化について日本人である私以上に知っている学生も多くいました。自分には自国である日本についても知らないことがこんなにもあるのかと思い知らされました。他にも、私に対してたくさん質問してくれたり、彼らが日本で訪れたことがある場所を紹介してくれたりして、その積極性と日本への好奇心に驚きま

した。この経験を通して、外国語を学ぶ中で私ももっと積極的に自分の好奇心を探究したいと思いました。

授業以外でも楽しい経験や貴重な経験をすることができました。放課後や休日は多くの時間をバディと過ごし、現地の食べ物や旅行を一緒に楽しみました。日本とは違う文化を楽しみながらバディと交流することができて良かったです。台湾の学生や先生との会話は英語で行いましたが、人によっては聞きやすい英語であったり、そうではなかったりして、様々な人の英語を日常の中で聞きました。話す速さや声のトーンによって聞き取りやすさが違い、様々な人と会話することはリスニングの訓練になると感じました。

今回の留学は、自分の興味・関心を広げることができた忘れられない経験となりました。また、留学が終わった今でもバディと連絡を取り合う仲になることができて嬉しく思います。今度はバディを日本に招待して観光を楽しみたいです。最後になりますが、このプログラムを通してお世話になったすべての方に心から感謝申し上げます。

「台湾留学を振り返って」

経済学部 2 年

木田ヒカル

1 ヶ月の台湾留学を通して、日本の中では体験することができない貴重な体験をたくさんすることができた。食文化、街並み、大学での授業風景などのすべてが私にとって新鮮で、異文化を感じることの楽しさを改めて感じた。最初は、それまで台湾に対して持っていたイメージとのギャップにストレスを感じるなど大変なこともあったが、台湾に一緒に行った日本人メンバーや台湾でできた友人のおかげでそのストレスはなくなりその後は楽しく活動することができたのでよかった。また、台湾の事を理解できるだけでなく、台湾人から見た日本について教えてもらうことで、それまで当たり前だと思っていたことが日本の魅力であることに気づくこともでき勉強になった。台湾人と交流する中で常に感じていたことは、社会情勢や政治に関する知識の差である。台湾人は一般市民であってもこれらのトピックについて自分の意見をしっかり持っているし、授業中も議論している場面が多く見られた。今の私は自国のことでさえも知識が乏しく、日本がどのようなところか外国人に聞かれたときに、うまく説明できるほど日本の歴史や文化について詳しくないので、今後のために知識を身に着けたい。また佐賀大学内でも留学生と交流することで異文化を感じることはできるし、その文化を受け入れる寛大な心を育むことはできるので国際交流を今後も積極的に行いたい。そして日本に興味を持って来日している彼らにも日本の魅力を伝えていきたい。たった 1 ヶ月しか滞

在していなかったが台湾人のあたたかさ、町や食文化の魅力を実際に感じたこの期間は私にとってかけがえのないものであり、それと同時に長期留学をしたいという思いがさらに高まった。大学生である今しかできない経験を通して、今後も成長したいと感じた。

みんなでバスケットボールをした時の様子

「台湾留学を振り返って」

経済学部 2 年

髙口ひな

約一か月間の留学を振り返って、印象に残ったことを勉強面と生活面で述べる。まず勉強面では、中国語とインドネシア語のクラスを取り、英語以外の言語を勉強したことである。今まで日本語で英語を勉強することがほとんどであったため、英語を使って他の言語を学ぶのは難しさも数倍に感じたが、まったくゼロから学ぶ楽しさもまた味わうことができた。特に難しかったのは、中国語のピンインで、まったく違った意味の単語を発音しているのに、発音が同じに聞こえることである。教授に何度も発音してもらって実践してみるが、その時はできてもまた後で自分で発音すると違和感があり、マスターするのはなかなか難しかった。中国語もインドネシア語も、日本にはない発音や舌の使い方が多々あるため大変苦戦した。夏にはまたインドネシアの短期留学があることを示唆されていたので、それまでに自分でより深くインドネシア語を理解したいと思った。もうひとつ興味深かったのが、English communication のクラスで、決められたトピックについてグループでディスカッションを行ったことである。それぞれ質問を 5 個以上考えてきているので話が途絶えることなく、長い時間意見を交わすことができた。映画の年齢制限の話や自分の興味のある音楽についてなど様々なことを話すことができ、非常に楽しかった。また、自分の意見を文章で伝えるくせがつき、話が伝わった時の喜びを何度も感じることができた。

生活面では、バディーやクラスメイトと積極的に関わり、いろいろな場所に足を運ぶことができた。ピアノクラスでできた友人と毎週木曜日に

ピアノの自主練習を行ったり、English communication のクラスの友人にカレーを作ってもらったり、花蓮の美味しい料理を食べさせてくれたり、バディーに台南や台北を案内してもらったりなど、非常に充実した時間を過ごすことができた。台湾のバディーの方はとても親切で、私が高校の部活でバドミントンをしていたことを伝えると、お昼休みや休日にバドミントンをしている団体の中にいれてくれたり、台湾でいきたいところや食べたいものを伝えると、行き方を教えてくれることはもちろん、電車のチケットまで手配してくれたりなど、バディーの優しさに感謝でいっぱいであった。

いろいろな経験をさせてもらった中で一番印象に残っているのは、バディーの親族の結婚式に参加させてもらったことである。伝統的な衣装を着させてもらい、二日間異なる形式の式を実際に経験できたことは一生の思い出である。日本と似たところもあったが、日本のような招待状をもらった人のみで開かれる式とは違い、ご近所の方ほとんどが出席しているのではないかと思うほどたくさんの人がお祝いに駆け付けていたのが、コミュニティの親密さをかじることができて、非常にうらやましく思った。多くの人と関わり、様々な経験ができたことは、このプログラムに参加しなければできなかったことなので、今後も長期留学に行けるようにより一層勉強に励みたいと思った。

「約 1 カ月間の台湾研修を終えて」

経済学部 2 年

中原歩美

私にとってこの研修は初めての海外渡航となる研修だった。今まで SUSAP のプログラムに参加したことはあるが、コロナの影響もあってすべてオンラインでの研修だったので、そろそろ実際に海外に行きたいと感じているときであった。初めての海外で初めはとても緊張していたが、いろいろなことを学ぶ良い機会になったと思っている。

私が台湾で過ごしてみて大変だったことはたくさんある。まず、トイレットペーパーがあるところが少なかったので、ティッシュペーパーをたくさん持ってきたのにもかかわらず足りなかった。事前の調べが甘かったせいか、私たちが滞在した花蓮市ではトイレットペーパーがないトイレがほとんどだということを知らず、台湾に着いてから焦る事態となってしまった。海外は日本とは異なることがたくさんあると言うことを念頭に置いて、よく事前に調べていなければならなかったというのが反省点である。さらに、花蓮市では英語が通じない場面も多く、現地の言葉を事前に少し学習しておくべきだと感じた。日本にいたときは、とりあえず英語が多少出来ればどこの国に行っても問題ないだろうと勘違いしていた。しかし、台湾に来てコンビニやスーパーで何を聞かれているか分からなかったり、店のメニューが全く分からなかったりして、とても困った。台湾に来て少し中国語を勉強したら、少しコミュニケーションが楽になったので、海外に行くときは現地の言葉を最低 3 時間くらいはしておくべきだと思う。また、日本ほどではないが外が多少寒い日であっても、電車の中は冷房がついているときが

あって寒かったし、朝と夜の気温差が大きく、冬であっても昼は日本の初夏くらい暑かったし夜は日本の初冬くらいの寒さだった。この経験から、夏服と冬服を最低でも一着持って行くべきだと感じた。私は台湾の 2、3 月は暑いと思っていたので冬服を持っていかなかった。しかし、2 月はまだまだ寒かった。その国の気候は行っていないと分からないことも多く、調節できる服装が大事だと思う。

滞在した大学での生活については、授業ではなかなか先生が話していることを理解できず、自分のリスニングスキルがまだまだだと感じた。台湾から帰ったら、英語の学習により一層励もうと思う。授業を受けて感じたことは、日本と違って積極的に発言する生徒が多い授業と、日本と同じようになかなかだれも発言しないような授業があって、差が激しいということである。また、英語が出来ない学生もいて、少し日本と同じように感じる場面もあったが、英語ができる学生のレベルが高く、英語圏からの留学生かと思いきや台湾人だった時もあった。このように差はあるものの、全体的に日本よりは英語のスキルのレベルが高いと感じた。教科書の内容も日本のものと比べるとかなり難しく感じた。また、授業以外では、バディと夜ご飯を一緒に食べるなどして過ごした。趣味が同じ人がいて、いろいろなことを話スことが出来てとても楽しかった。しかし、話したいことがなかなか英語で出てこず、スピーキングスキルもまだまだだと感じた。

週末の生活については、寮のルームメイトのバディとルームメイトで旅行する機会もあり、毎週末出かけることが出来た。台北・台南・九份・十分に行った。電車に乗っている時間が 2 時間だったり 4 時間だったりしてきつかったが、台湾にしかないようなお店や雑貨屋さんなどいろいろなお店を回って、いろいろなものを食べたりしてとても楽しんだ。

1 カ月以上の研修だったので長いと思っていたが、あっという間に研修が終わってしまった。台湾で過ごしてみて、日本と違うところを見つける機会もたくさんあったのはよかったが、やはり日本がいいなと感じた。台湾の良さを感じつつ、日本の良さを改めて痛感できたことは良かったと思う。とはいえ、また海外に行ってみたいというのも事実であり、今回初めての海外渡航により、海外へ行くことの躊躇がなくなったことも良い経験になったと感じる。

バディの umi との写真

「自信を持つこと」

経済学部 2 年

佐藤杏奈

私が一か月の台湾での生活を通して一番学んだことは、「自信を持つことの大切さ」です。

私はクラスメイトとディスカッションの時間が設けられている講義を積極的に受講しました。海外の学生と英語を使って話す機会をできるだけ多く得たかったからです。しかし、私にとってそれは簡単なことではありませんでした。特に、「International Relations」という授業は、世界の経済、政治についてのディスカッションであり、英語以前にトピックの内容が難しかったので、初めのころ、私は周りの生徒の考えや英語力に圧倒され、自分の意見を述べることにも英語を話すことにも自信を失ってしまい、恥ずかしく感じてしまいました。その結果、自分の意見をしっかりと口にすることが出来ず、周りの人に言いたいことを伝えることができませんでした。このままではせっかく学びに台湾に来たのに何も得られずに終わってしまうと反省し、徐々に自信をもって発言することができるようになりました。そうすると、私が一生懸命伝えようとしているのを見て、周りも耳を傾け、質問をし、理解に努めてくれたので、自分の考えを伝えることが出来ました。この時、私は大きな達成感を感じることができました。

自信を持つことの大切さは授業中だけでなく、日常生活においても感じました。私はよく、バディたちと遊びに出かけたり、夜ご飯を一緒に食べたり、週末に旅行に行ったりしましたが、初めのころは自分の英語力への自信の無さから話しかけることを恐れてしまい、なかなかすぐには打ち解けることができませんでした。しかし、うまく言えなくても、間違った英語を使っていても、堂々と、そして積極的に話しかけてくれるバディたちを見て、間違えてもいいから私もたくさん話しかけようと思うことが出来ました。とりあえず、思ったこと、感じたことを口にしてみる、伝える、ということを意識するだけで、会話の量が増え、お互いにたくさんのことを知ることができ、より多くの楽しい時間を共有できたと思います。そのおかげでバディたちととても仲良くなることができ、今では、かけがえのない友人の一人になりました。

この研修を通して、自信を持つことで、より多くの発見ができ、自分を成長させることができると実感しました。今回は自分の英語力についての自信をつけることがコミュニケーションの幅を広げることに役立ったと思います。これからの人生においても、「自信を持つこと」を大切にし、自分の人生をより豊かなものにしていきたいと思います。

バディと行った「東大門夜市」にて

「最高の友達 」

経済学部 1 年

飯島しのん

私は、今回 SUSAP の留学プログラムに参加させていただき、台湾にある東華大学で、1 ヶ月間生活しました。平日は、東華大学の授業を受け、休日は、台湾人のバディーの方や、台湾人の友達と過ごし、充実した時間を過ごすことができました。

私にとって、1 ヶ月間実家を離れ、異国で暮らすことは初めての経験だったので、台湾に留学する前は、不安なこともありました。しかし、台湾人の優しさに触れ、友達を作る中で、成長することができた。この留学を通して,人とのつながりの大切さに気づいた。台湾人のバディーの方と日本にいる時から、連絡を取っていたが、初めは英語で話すことに抵抗があり、人見知りをしていて、自分から話しかけることをしませんでした。しかし、私のバディーの方は、たくさん話しかけてくれて、話を聞いてくれました。そのおかげで、じぶんから話しかけることに対して躊躇がなくなり、平日のクラスにもたくさんお友達ができました。友達が、中国語で話している時や、会話がうまく続かない時に、戸惑うこともありました。しかし、バディーの方から、教えてもらった中国語を使って話しかけてみたり、共通の趣味の話で盛り上がったり、バスケをすることでコミュニケーションを取ることができました。仲良くなったクラスメートが、旅行についてきてくれたりご飯を食べたり、台湾について教えてくれてこの留学をより濃いものにしてくれました。

台湾の授業は日本のものとは大きくことなり、ディスカッションをする授業や、先生から意見を求められるものが多かったです。一番大変だと感じた授業は、International Relationship の授業で、まず教科書を舞授業 1 チャプター読んでそれに対して、次の授業で討論すると言うものでした。教科書のトピックは、世界政治に関するもので、私にとって難しく日本語でディスカッションするのも難しく感じるました。しかし東華大学の生徒は世界情勢や、過去のことを理解していて、それに対する自分の意見も持っていて、かっこよく感じると共に、自分ももっと世界に目を向けて勉強しようとこれからのモチベーションになりました。

留学を終えて、英語と自分の専門分野へのモチベーションが高まった。台湾で友達が増えていくにしたがってもっと話したいのに、語彙力がなく伝えらない時、討論で自分の意見が言えない時にもどかしく感じることが多かったです。留学に行く前は、人見知りな私には友達できないだろうと思っていたり、日本に帰ったら連絡しなくなるだろうと思っていたが、今でも連絡をとりあう友達ができたことで、海外の友達になれることの楽しさを知りました。また同じ専攻の方と話すと知識の多さに驚きました。台湾でできた友人は、私の勉強のモチベーションを高めてくれました。この経験を活かして、これから自分の将来の目標に向けて頑張りたいです 。

「留学を通して得たもの」

農学部１年

野田恵

私はこのプログラムに参加し、日本ではできない多くのことを体験し、新しい知見を得ることができた。

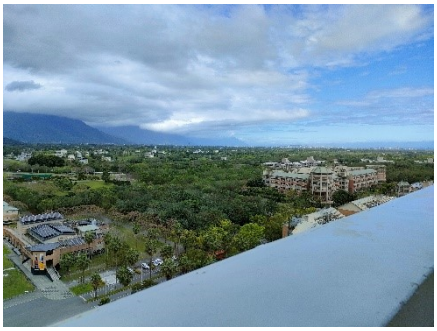
一つ目は留学中に最も大きな割合を占めた英語についてだ。バディーやクラスメイトと話をして、台湾人は私が思っている以上に、日本のアニメを見ていることを知った。そして、台湾人に「〇〇を見ています」と言われた時、自分も相手と同じアニメを見たことがあった場合でも、自分の感想や感情、人物の行動を表現する単語やフレーズをあまり知らないため、何と言って話を広げればいいかわからず、「自分も見たことがあるよ」や「そうなんですね。たくさん見ているんですね。」と広がらない返しをしてしまうことが多かった。一か月間、英語での日常会話が多かったため、活発な会話のためには、どのような単語や表現を知らなければならないかが分かった。

二つ目は授業についてだ。私は専門の微生物学の授業を受けていた。日本の授業と違いを感じたのは、学生が積極的に授業を受けているところだ。日本では先生の話を聞いているだけだが、台湾では授業中に先生に質問したり、先生からの問いかけに応えたりしていた。受け身の授業ではなく、コミュニケーションを取りながら学習できるので、内容の定着が早かったように感じた。また英語の授業は少人数で学生同士で英語を使って話す時間が確保されており、日本より日常の中で、英語を話す機会が多かった。日本では、先生が一方的に話す授業や、ライティングを重視した授業が多い。そのため、最初

の頃は授業で、いざ英語を話すとなると、言葉に詰まってしまった。焦らず英語でコミュニケーションを取るためには授業では足りない分を補うスピーキングの練習が必要だと感じた。

三つ目はコミュニケーションについてだ。一か月間バディやクラスメイトと共に多くの時間を過ごした。今回の留学が初めての海外生活だったので、過去に自分が外国人、少数派として新たな環境に飛び込んだことがなかった。最初の頃は、温かく迎え入れてもらえるか、仲良くなれるか不安だったが、初対面の時から、出会った方全員が優しく接してくれた。日本では、まだ、多くの人が外国人を見ると、英語が話せないことや文化、宗教の違いを理由に少し冷たい態度をとってしまう。しかし、台湾の学生はみなフレンドリーで優しく、私が困っていた時に積極的に助けてくれた。この姿勢を見習い、自分と異なる価値観を排除せず少数派の人を快く受け入れることを大切にしていきたい。

留学を通して、自分の英語力の低さを痛感し、英語力の向上意欲が高まった。また、毎日新しい発見の連続で、台湾での常識を体験することができた。台湾のことを知れば知るほど、もっと知りたいと思うようになった。現地でしか学べないことがたくさんあり、留学する意味を身をもって感じた。この一か月は非常に貴重で、今後の学生生活に活きていくと確信したため、台湾に留学できて良かった。長期留学という次のステップに向けて英語力向上に励みたいと思う。



「台湾での１ヶ月の生活を振り返って」

経済学部１年

砂子佳花

私がこのプログラムに参加しようと思ったきっかけは留学とは何か知りたかったからである。私は今までに海外に行った経験もないので海外と日本で大きな違いがあるのか、自分の価値観が変わるのか知りたかった。このプログラムに参加して学び感じたことがたくさんあった。

私は今まで日本でしか生活していなかったため海外の生活環境などがどのようなものなのか全くわからなかった。台湾に行って日本のインフラ整備がとても整っているということに気づいた。台湾のトイレにはトイレットペーパーが置いていないところが多くあり自分で用意しておかないといけなかった。日本での当たり前は海外では当たり前でないということを体感した。また、海外は治安があまり良くないというイメージを持っていたがそんなことはなく日本と同じような雰囲気であった。しかし交通の面では危険だと感じることが多くあった。台湾ではバイクの交通量がとても多く、車･バイクともにスピードがとても速く、台湾は歩行者優先ではないので道路を渡るにはとても注意を払わなくてはならなかった。

東華大学の授業は日本と似ているところもあったが、違うと感じるところも多くあった。専門的な知識を身につけるための授業は席に座って先生の言っていることをメモしながら聞くということが主だった。教養の授業は生徒同士がコミュニケーションをとったり、プレゼンテーションをしたりする機会が多かった。生徒たちは積極的にコミュニケーションをとっていて台湾の学生は英語を話す能力が高いと感じた。授業中にわからないことがあったら先生に積極的に質問をしていたので授業に対する意欲が日本の学生よりもあると感じた。私は日本語の授業をとっていたのだが日本語の授業をとっている人が思っていたよりも多くの人がとっていたので驚いた。また他の授業で同じになった人で日本語を勉強している人が居たり日本に留学に来る、日本への留学を考えている人がいたりと日本に興味を持っている人がたくさんいると感じた。

そのため台湾の学生たちは日本人に対してとても優しく接してくれた。バディーの人はわからないことがあったら教えてくれたり、自分が行きたいと言ったところ、食べてみたいものを言ったらそこに連れて行ってくれたりするなど台湾での生活が楽しく過ごせるよう手助けを多くしてもらった。バディーの人以外でも授業で同じになった人と一緒にご飯やちょっとした旅行に行ったり、台湾でのおすすめのお菓子や飲み物を私にくれたりと、とても優しく接してくれた。友達ができるのか不安に思っていたが台湾の学生が気さくに話しかけてくれたのですぐに仲良くなることができた。いい意味で壁がなかったのでとても話しやすくてこれからも仲良くしていきたいと思いました。

この１ヶ月東華大学に行ったことは私にとってとてもいい経験となった。自分の英語能力どれくらいなのか知ることができ英語に対する意識が変わった。いろいろな人と関わって今まで知らなかった台湾の食や文化に触れることができて台湾のことがとても好きになった。このプログラムに参加したからこそできたこともおおくあったので参加して本当に良かったと感じた。

日本語の授業の様子

「台湾での1ヶ月を通して」

芸術地域デザイン学部１年

神戸愛心

授業

私は、東華大学の授業で印象深かったことが２つあります。

１つ目は、授業の雰囲気についてです。留学生向けの様々な国出身の学生が受ける授業は、日本の授業と雰囲気が大きく異なりました。留学生は、リアクションが大きく、先生の説明中に質問する人も見受けられました。今まで、違和感なく日本の授業スタイルで講義を受講してきましたが、他のスタイルを間近で見たことで、授業の受け方は一つではないと思いました。

２つ目は、プレゼンの授業についてです。私は、学生が一人ずつ、自分の好きな曲とその曲を作ったアーティストについてプレゼンを行う授業を受講し、この授業が特に面白いと感じました。台湾の学生は、英語力、プレゼン力が高く、発表がハイクオリティーでした。各学生が、好きな歌について個性豊かなプレゼンを通して語っていたため、様々な世界観に触れることができました。また、各発表の最後に歌のテーマにまつわるディスカッションがあり、「愛とは何か」「夢を追いかけるために失うもの」といった哲学的なトピックについて、生徒同士、ときには先生も交えて意見交換をしていて、皆の生き生きとした姿が印象的でした。この授業を通して、私は、何かを深く考察したり人の考えを聞いたりすることが好きなのだと再認識しました。

立てていた目標について

私は、台湾にいるからこそできること」とは何かを考えて、目標を考えました。まず「台湾の芸術文化」と「原住民文化」について学ぶ目標を立てました。この２つは、今後私が大学で学ぶ可能性がある分野に近いものです。私は、まだ将来何をしたいのか方向性が定まっておらず、台湾という新しい環境で学ぶことで、そのことに関する発見を得られるかもしれないと思いました。ネットを通してではなく、現地で五感を活用して学ぶことは、素晴らしい経験になると思いました。また、「台湾で友達を作ること」も私の目標でした。人との出会いは、私の人生を豊かにしてくれているので、世界に友達を作りたいと思いました。この１ヶ月間、目標を意識していたからこそ様々なことに気づくことができました。

１つ目の「台湾の芸術文化」についてです。授業で、芸術を専攻している学生さん達に出会いました。そこでその人たちに声をかけて、後日時間を作ってもらい、大学で何を勉強しているか、将来何をしたいか等に着いて一緒に話すことができました。特に、私と同じようにプロジェクト関係の勉強をしている方に出会ったときはこの貴重なチャンスを逃さないようにと思い、話しかけました。私の学部のようなコースを開講している大学は日本では珍しいため、違う学校で同じような専攻の人と勉強について話したことありませんでした。事前に質問を練ったり、自分の大学での学びの説明を準備したりして、よい勉強の機会を作り出せたと思います。また学外では、いくつかの文化創意産業地区や文化財を訪れることができました。街中の様子も観察しました。現時点では、詳しい情報を調べるところまで至っていませんが、本を買ったり、記録書写真を撮っておいたりしたので、今後資料をもとに勉強したいです。

２つ目の原住民文化についてです。大学内に限らず、台湾では原住民の存在が日本よりもかなり近いと感じました。あらゆる場所で原住民の文化を感じることができます。とても驚いたのは、文化とは全然関係のない専攻の学生達が、原住民に関する基礎知識を説明できていたことです。日本では、そのように説明できる人は、少ないと思います。また日本では、この大学の「原民院」のように原住民文化に特化した学部は少ないと思います。

３つ目の「台湾で友達を作ること」についてです。私は、高校まで、近くの席のひとと自然に仲良くなれるため、友達作りであまり困ったことがありませんでした。しかし、大学では積極性が必要である場面にたくさん直面し、何をすれば良いのかよく分からず、戸惑うことが多くありました。また、Ｇサポとして国際交流イベントに携わり、国際交流では特に、友達を作るためには自分から行動をしなければならないと感じていました。台湾では、初めの頃は、バディーとは仲良くなることができましたが、授業で会った人等さらに人脈を広げるところまでは至りませんでした。他の日本人の学生には、仲良くなることがとても得意な人がいました。観察をしてみると、その人たちは共通して、明るく、常に笑顔を絶やさずに会話していることが分かりました。

今まで私は、留学でのコミュニケーションというと英語のスキルのことを真っ先に考えていました。確かに英語力も大切ですが、今回の

短期留学は英語力以外にも大切なことがあるということに気づかせてくれました。

まず、自分の話を魅力的に伝える力が足りないと思いました。今回台湾で、「人に伝える」ということについて考える場面が多くありました。何をどのように考え、語るかということも英語力と同じように重要視しなければならないと考えます。

また、自分の経験不足を感じました。よく一緒に話してくれるバディーは経験が豊富で、大学に入るまでの経験や面白おかしい高校時代の話など、興味深い話題が尽きることがありません。それに比べ、私はまだ人生経験が浅いと思いました。

そして、言語の壁があっても人柄やその人から滲み出る雰囲気が大きな役割を果たすということに気が付きました。仲良くしてくれた台湾人の学生さんは、素敵な方々で、ずっと友達でいたいと思える人ばかりでした。人柄を磨くことは、短い期間で成し遂げることはできないけれど、これから良い人間になろうと心に決めた１ヶ月でした。

「一ヶ月という期間で得られる学びとは 」

芸術地域デザイン1年

中園千絢

台湾と聞いてどのようなイメージを持つだろうか。私は、このプログラムに参加するまで、実は文化や政治、経済など台湾について知らないことばかりであった。そんななか、なぜこのプログラムで、一ヶ月間という期間で、そして台湾という国を選んだのか。それは日本と地理的に近く歴史的にも深い関係があり、生活や価値観など、日本と似ているものが多いために、初めての海外生活にしては比較的カルチャーショックも少なく過ごしやすいのではないかと考えたからである。しかし、事前に調べた情報をふまえて、実際に訪れ生活してみると、日本との類似点や大きな違いなど新たな発見や知見が多く得られた。

まず、スーパーやコンビニなどで日本製のものが多く見られるということだ。スナック菓子をはじめカップ麺、そして生活用品や化粧品、医薬品や家電などいたるところで日本のブランドのものが見られる。実際、台湾のバディや授業で知り合った台湾人に聞いても、キットカットが好き、化粧品は日本のものを使っているなど、日本ブランドのものを好む人々が多いように思えた。理由を聞くと、やはり安全が保障されている、信頼できるなど、日本製品の品質に対して大きくプラスのイメージを持っているということがわかった。ただ、価格は輸入製品だからか、日本よりも大幅に高いと感じた。しかしそれでも日本製品を買うという人々も多く、日本ブランドが持つ強みを国外で再認識するとともに、将来自分が夢であるデザイン業界で産業デザインに関わることになったとき、

この日本製品の強みを維持し続けられる製品を作りたいと強く思うようになった。

また、生活用品も日本製が多いというだけでなく、食生活などライフスタイルも日本と似ている点が多く、入国後もすぐに寮生活に慣れ、大きなカルチャーショックを感じることはなかった。唯一いつまでも慣れなかった点は、衛生面が良くないことである。特にトイレでは洋式トイレはほとんど無く、和式が普通であった。トイレットペーパーは置かれておらず、自分で持ち込む必要があり、さらには水圧が弱いためにそれらを流すことはできず、設置されているゴミ箱に捨てるという、日本のトイレとはかけ離れたシステムにはいつまでも順応することはできなかった。また、飲食店でのカラトリー類の衛生上良くない保管や、お風呂とトイレに全く仕切りがないなど、日本では考えられなかった多くのことを目の当たりにした。そして改めて日本の衛生環境が改めて高水準であることに感謝し、感染症の予防や健康のためにも、日本の技術を早急に海外に継承する必要があるのではと強く感じた。

続いて、大学で授業を受けている中で気づいたことをいくつか挙げる。まず、プレゼンテーションを行う授業が多いということだ。今回の研修でオールイングリッシュの授業をメインに数多く履修したが、ほとんどの授業で毎週三人以上プレゼンテーションを英語で行う機会が与えられていた。発表内容は文化、政治、経済、労働など難しいトピックから、自分の好きな音楽を紹介するラフな発表まで、授業ごとにさまざまなトピックで行われた。どの授業の発表者も適度に画像や動画を用いた非常に見やすいスライドで、原稿も見ずに堂々とスラスラと英語で発表しており、日本との差を強く感じた。日本にももちろんプレゼンテーションの時間は確保されてはいるが、たいてい中間や期末のみのグループ単位の発表であり、毎週個人単位で行うというわけではない。つまり、プレゼンテーションを行う機会が日本と台湾では根本的に大きく異なる。さらに、各生徒の発表後、教授からすぐに口頭やスコアシートなどでフィードバックが行われていた。日本での数少ない発表の授業を振り返ってみると、非常にその場でのフィードバックが少なく、自分の発表に何が足りないのか、どのような要素が求められているのかわからないままで、次の発表に向けて客観的な評価をもとに改善することが難しいように感じる。かといって就職してからもこのままの発表のスキルでは、社会人としては通じない。日本でも台湾のように将来有用な発表の仕方を個人単位でフィードバックしつつ身につけられるような機会をもっと増やすべきである。

また、台湾は小さい頃から英語を学習し、英語話者が多いというイメージがあったが、実際日本よりも英語話者は多いとはいえ、自分の予想よりは少ないと感じた。今回の研修では英語の授業を多く履修したため、英語をある程度話すことができる生徒が多かったが、日常生活など授業外で出会う人々は英語をスラスラ話す人は少なかった。英語が通じないがために、スマホで示す、バディに翻訳してもらうなど、スムーズなやり取りができない場面もしばしばあった。バディに英語話者は実際どれくらい多いのか聞いたところ、台湾人から見ても、日本よりは多いとはいえ実はそんなに多くはないということがわかった。英語力の向上を目標に本プログラムを選ぶには、自学や英語の授業の履修が欠かせず、正直それ無しには英語力のみ

の高い向上は難しいのではと個人的には思う。むしろ、英語だけでなく中国語や台湾語を学びたい、台湾という国自体に興味がある、海外で暮らし視野を広げたいという人には本プログラムは非常に合っていると思う。

一ヶ月間の留学を長いと感じるか、短いと感じるか。答えは様々であるが、私は研修を振り返って、この一ヶ月という期間こそ、自分の初めての海外生活にはベストな選択であったと考える。一ヶ月という期間は、長期であるために、新たな知識や学習へのモチベーションを得られるだけでなく、１回きりではない 4 回ほどの授業を通すことによるスキルの定着も可能である。同時に、短期間であるがゆえに、最終週であっても新たな人と物との出会いに溢れ、いつまでも新鮮な気持ちでいられた。

そこで改めて、自分にとって留学の意義とは、海外に行くとは何か。一カ国に長期滞在し日本とは異なる授業や研究施設で専門的なスキルを身につけたいのか、それとも多くの文化や価値観に触れ、自国を多様な視点から見つめ直すために色々な国に短期間で行ってみたいのか。将来留学を見据えて、果たして自分にはどんな留学の形が合っているのか、自分の中にあった迷いや不安が、このプログラムで解消され、方向性が定まってきたと思う。私と同じように、留学をしようか迷っている人、長期や短期の留学を踏み出せずにいる人にこそ、きっとこのプログラムが答えを与えてくれるに違いない。

佐賀海苔を使用したお菓子

授業の様子